

令和6年度 大阪市立阿倍野防災センター事業報告書

施 設 概 要

施 設 名	大 阪 市 立 阿 倍 野 防 災 セ ン タ ー
所 在 地	大阪市阿倍野区阿倍野筋3丁目13番23号
団 体 名	一般財団法人大阪消防振興協会、株式会社ノムラメディアス大阪事業所、ジェイ・アクシス株式会社 共同事業体
代表者指定管理者	一般財団法人大阪消防振興協会
代 表 者	一般財団法人大阪消防振興協会 理事長 小 西 一 功
主たる事務所の所在地	大阪市西区江戸堀1丁目24番18号

1 指定管理業務の実施状況

(1) 管理運営方針

阿倍野防災センター事業は、市民や企業の防災担当者等に災害時に必要な知識と技術を提供し、災害による被害の軽減につなげることが目的であり、共同事業体のそれぞれの専門性とノウハウのすべてを結集し、消防局が運営方針に掲げる市民が安心して暮らせる「災害に強いまち・安全な都市」の実現に向け、ともに取り組むことを方針としています。

(2) 職員の配置状況

ア 一般財団法人大阪消防振興協会

体験学習・研修訓練・企画広報・施設管理を効率的に運営できる職員を下記のとおり配置しました。

(ア) 防災センター長（協会職員）	1 名
(イ) 副防災センター長（協会職員）	1 名
(ウ) 管 理 担 当（協会職員）	1 名
(エ) 防災学習担当（協会職員）	1 名
(オ) 防災研修担当（協会職員）	1 名

イ 株式会社ノムラメディアス大阪事業所

展示設備の定期保守点検や故障等の不具合発生時に、設備機器専門スタッフのうち必要人員を派遣し対応しました。

ウ ジェイ・アクシス株式会社

アテンド・スタッフを常時7名の配置で対応しました。

(3) 施設管理状況

ア 建物管理

建物施設及び防災センター周辺の維持管理については、年度協定書に基づき適正に管理しました。

イ 体験施設管理

年度協定書に基づく定期点検及び日常点検を実施しましたが、重大な不具合等はありませんでした。

ウ 関係機関との連携

- (ア) 事務担当者会議等において、複合施設あべのフォルサ全体の施設管理として連携強化に努めました。
- (イ) 施設管理等の連携及び防火・防災対策として実施した自衛消防訓練〔令和6年12月24日(火)及び令和7年3月3日(月)〕において、防災活動の専門家として指導、アドバイスをを行いました。
- (ウ) あべのフォルサ合同で連携し毎月1回庁舎周辺の清掃活動を行い、環境改善による職場づくり、まちづくりに努めました。
- (エ) 防災関係機関（海上保安庁・自衛隊・気象庁等）とのネットワークを構築し連携強化に努めました。
- (オ) 障害者団体とハンディキャップのある来館者の対応について連携を図りました。
- (カ) 技能実習生等受入事業者と多言語対応によるアテンド要領について、連携を図りました。

2 感性症対策

(1) 防災体験学習エリア

新型コロナウイルスは、令和5年5月8日から感染法上「5類」に引き下げられたことにより引き続き、手指消毒は来館者の任意としました。

(2) 防災研修訓練エリア

手指消毒について、前記防災体験学習エリア同様に研修者の任意とした。

3-1 防災体験学習エリア利用状況

(1) 開館日数 298 日 (内臨時開館3日間)

(2) 休館日数 67日

(3) 来館者数 79,356人

月別来館者数

月	来館者数(人)	開館日数(日)
4	4,746	25
5	5,314	25
6	6,770	25
7	6,938	26
8	9,531	29
9	7,866	25
10	6,817	25
11	7,436	25
12	5,215	22
1	5,729	22
2	6,955	23
3	6,039	26
計	79,356	298

一日の稼働時間 8時間

延べ稼働時間 2,384時間

一日平均利用者 266.3人

一時間平均利用者 33.3人

令和6年1月1日に発生した、能登半島地震や8月8日の宮崎県南部での地震を受け、南海トラフ地震臨時情報「巨大地震注意」が発表されたことにより、市民の災害への関心が一段と高まったため各コースの体験者が前年度と比較すると12.8%増加しました。

3-2 防災研修訓練エリア利用状況

- (1) 開場日数 302 日
- (2) 来場者数 24,858人

月別来場者数

月	来場者数(人)	開場日数(日)
4	1,918	28
5	1,819	23
6	1,857	25
7	2,086	29
8	4,366	26
9	1,897	26
10	2,014	28
11	1,632	21
12	1,779	25
1	1,765	23
2	1,817	23
3	1,908	25
計	24,858	302

甲種防火管理新規講習	7,612	人
防火・防災新規講習	7,107	人
甲種防火管理再講習	212	人
教育担当者講習	0	人
自衛消防業務新規講習	4,872	人
自衛消防業務再講習	1,718	人
普通救命講習	552	人
消防局事業	0	人
イベント等	2,661	人
使用許可に係る研修会等	119	人
防災設備室等利用	0	人

前年度(24,597人)と同等の来館者となりました。

4 成果指標の達成状況

大阪市立阿倍野防災センター管理業務基本協定書第3条に基づく成果指標の達成状況については、次のとおりでした。

成果指標	達成度
防災体験学習エリア及び研修訓練エリア体験者のうち、「助かる力、助ける力が身に付くような知識技術を習得することができた」と答えた体験者の割合を全体験者の80%以上に保つこと。	98.1% *アンケート回答者数 3,808人のうち『思う(2,740人)、やや思う(996人)』と答えた人合計3,736人

上記達成度のとおり、来館者からは非常に高評価を頂きました。

5 実施事業・自主事業

(1) 主なイベントの開催

ア 「パパ・ママ応急手当教室」

育児中のお父さん、お母さん等を対象に心肺蘇生AEDの使い方、異物誤飲、止血など応急手当の普及に努めました。

令和6年6月22日、9月22日、11月30日、令和7年1月19日、3月15日 計61人参加

イ 「キッズ&ユース・ファイアーイベント」

将来の地域防災を担う人材の育成を図ることを目的に開催しました。

令和6年5月3日～5日 計1,525人参加

ウ 「ローリングストック推進の防災講話&防災クッキング」

備蓄に関する知識を養い、自宅でできるローリングストックの考え方を理解してもらいました。

令和6年7月21日 計68人参加

エ 「防災クイズチャレンジ」

防災クイズに広く参加してもらい、来館者に防災の知識を深めてもらいました。

令和6年6月22日～23日 計201人参加

オ 「あべのタスカル・サマーイベント2024」

消防局、自衛隊、海上保安庁、大阪管区气象台、環境局、阿倍野区金塚連合振興町会の協力のもとコラボイベントを開催し、各機関の最前線での活動状況等の理解を深めてもらいました。

令和6年8月3日～令和6年8月4日 計1,165人参加

カ 「あべの天王寺サマーキャンパス2024」

イベント内の「リアル体験プログラム」に協力し100人の体験を受け入れました。

令和6年8月24日～25日 計100人参加

キ 「知ってますか？災害伝えるダイヤル171利用法」

公衆電話のかけ方、緊急通報（110・119）のかけ方、災害用伝言ダイヤル（171）の使い方を周知することにより、防災意識の高揚を図りました。

令和6年9月15日 33人参加

ク 「災害と衛生環境についての防災講座」

災害発生時の避難所などにおける衛生環境についての知識を養い、備えて頂く機会を設けました。

令和6年9月16日 22人参加

ケ 「防火・防災かたりべの会」

元消防職員が、様々な災害活動を通じて得た体験を来館者に語りつなぎ防火・防災について考えてもらう機会を設けました。

合計22回実施 計201人参加

コ 「シルバーエイジ・ファイヤーイベント」

高齢化社会に入り、独居高齢者世帯が増える中で火災や自然災害等から身を守るためのパネル展示や映像を上映し、防火安全対策の普及啓発に努めました。

令和6年9月14日～16日 期間中来館者数 計1,055人

サ 「子ども学生VR防災自由研究」

防災のテーマを設定し、VR（仮想現実）と組み合わせ、それを追求していく探求学習で、問題解決からまとめ方までのスキルを磨くことを自由に研究することにより、防災についての意識の向上を図りました。

令和6年10月13日・令和7年1月26日・3月9日 計91人参加

シ 「ストーブ等の危険を知ろう」

厳冬期を迎えストーブが出火原因の火災が増加する前に、ストーブの危険性を再認識していただくため、パネル展示や映像を上映し火災等の事故防止について考えて頂く機会を設けました。

令和6年12月14日～22日 期間中来館者数 計1,776人

ス 「スプレー缶の怖さを知ろう」

身近にあるカセットボンベ等の危険性を認識していただくため、パネル展示と映像を上映し火災等の事故発生の防止について学習してもらいました。

令和7年2月15日～24日 期間中来館者数 計2,746人

(2) 防災特別展等の開催（休館日を除く）

ア 「防災週間特別展」

9月1日の「防災の日」を中心とした防災週間に合わせて、地震、台風等の自然災害に備えて、防災意識の向上を図りました。

令和6年8月30日～9月5日 期間中来館者数 計1,590人

イ 「津波防災の日・世界津波の日」特別展

11月5日の「津波防災の日・世界津波の日」にあたり、今後発生することが危惧される南海トラフ巨大地震等に備えて、防災意識の向上を図りました。

令和6年11月1日～7日 期間中来館者数 計1,725人

ウ 「防火・防災図画展」

大阪市消防局に優秀・佳作に選ばれた作品を展示し、子供たちの防火防災意識の向上を図りました。

令和6年11月1日～19日 期間中来館者数 計5,256人

エ 「防災とボランティア週間」

市民の自主防災意識の向上及び防災ボランティア活動の普及を啓発しました。

令和7年1月14日～令和7年1月21日 期間中来館者数 計2,093人

期間中、NHKによる阪神・淡路大震災30年「1995年1月17日 あの日、何が起こったのか」と動画上映と解説やパネル展示を行い、同じような災害が起こったらいったい何が起きるのか？どんなが必要なのか？自分事として考えていただき機会を設けました。

令和7年1月16日～18日 計250人参加

オ 能登半島地震パネル展示（常設展示）

令和6年1月16日から能登半島地震、令和7年1月17日から能登半島豪雨パネル展示を実施し、地震及び豪雨の状況と緊急消防援助隊大阪府隊の活動状況について紹介し防災意識の向上を図りました。

カ 火災の怖さを知ろうパネル展示（定期展示）

最近の特異な火災の発生事例について、予防課調査鑑識の協力を得て紹介し、防災意識の向上を図りました。

(3) 報道機関等からの取材対応

各報道機関への取材協力

6件

情報誌への協力

5件

収 入 合 計 (A)		85,903,024
項 目	業 務 委 託 収 入	84,902,455
	自主事業1収入（防災用品販売手数料、その他）	735,909
	自主事業2収入（自動販売機手数料）	264,660
支 出 合 計 (B)		92,256,508
項 目	人 件 費	56,159,087
	物 件 費	36,097,421
	水 道 光 熱 費	13,681,912
	賃 借 料	671
	通 信 費	740,409
	消 耗 品 費	1,042,836
	広 告 宣 伝 費	411,045
	外 注 費	11,209,409
	設 備 ・ 備 品 費	937,690
	そ の 他	8,073,449

7 その他

(1) サービスの向上

ア 体験コースの充実

(ア) 障がい者や外国人の対応として、日本語の他9か国の文字や絵が入ったA4案内版や点字の資料を作成し、手話と翻訳機などを併用することより体験しやすくしました。

(イ) 地震体験

⑦地震体験前の説明をビデオ映像と解説とし、より理解しやすくしました。

⑧ビデオ映像に車いすが揺れている場面などを挿入することにより、車いすの方にも体験しやすくしました。

⑨車いすを簡易固定することにより、より安全に体験可能としました。

⑩聴覚障害者などや外国人に対応するため、文字や写真による案内を実施し体験しやすくしました。

(ウ) 備えを学ぶコーナー内の119番通報体験に日本語の他9か国語の案内資料を設置し多言語対応しました。

(エ) 防災情報スクエア内に日本語の他9か国語の案内資料を設置し多言語対応しました。

(オ) Fコース体験可能日の充実

事業所等に対し屋内消火栓設備の使用方法を体験することを目的としたFコースの体験可能日を増やしました。(R5・86回→R6・107回)

イ ホームページ内にVR・3DCGを使用して、阿倍野防災センター内をパソコン上で見学していただけるようにしました。

ウ 避難器具の展示

備えを学ぶコーナーに、垂直式救助袋(1/4サイズ)と取り扱い説明パネルを設置し避難器具への理解を深めていただきました。

エ 内水氾濫のDVD「内水氾濫の予備知識」を作成し、救護の部屋などで上映を行い、来館者に学習していただきました。

オ 体験記録カードの発行

来館者の利用促進策として体験記録カードを発行し、来館時にもらえるスタンプが5個貯まった方に記念品を贈呈しました。(令和6年度2人)

カ「タスカルぶんこ」と称して、防災に関する参考本や絵本などを置き、広く来館者に読んで頂きました。

キ ご意見箱を設置し、来館者の意見・要望を受け、サービスの向上に努めました。

ク アンケートの意見・要望に基づき、サービスの向上に努めました。

ケ 指導員全員が防災士の資格を有しており、市民からの質問などに対応しました。

コ 歩行困難などの来館者に対して、車椅子の貸し出しを行いました。

サ 夏休み等来館者が多数見込まれる期間に臨時開館を行い、来館者のニーズに対応しました。

(2) 管理経費の節減

来館者の状況により、照明器具や空調機のこまめな電源オフに努め、消費電力の節約に

努めました。

(3) 施設内安全管理及び衛生管理の向上

ア 手指消毒液容器を各エリアに設置しました。

イ 施設内の各機器は定期的に消毒を行いました。

ウ 抗菌・抗ウイルスコーティング済みの機器を適切に管理しました。

エ 空気清浄機3台を運用し施設内の換気等に努めました。

オ 「応急救護コーナー」で使用するネクタイ、タオル等は定期的に洗濯及び消毒を行いました。

カ 障害者目線で、バリアフリー等について点検しました。

(4) 利用者からの苦情・意見等

特記事項なし

(5) 研修実績

ア 人権研修・接遇研修

人権研修は、2回 接遇研修研修は、2回実施し、全ての職員が受講しました。

イ 教養研修

(ア) アテンダントの技術向上研修を4回実施し技術の向上を図りました。

(イ) 国内での災害発生時には、防災情報の共有化を図りました。

(ウ) 手話教室を定期的に開催し、聴覚障がい者へのスムーズな対応が図れるように努めました。

ウ コンプライアンス研修

防災センター長が必要に応じて実施しました。

(6) モニタリングの実施状況

ア コース体験後にアンケートを実施し、コース体験者の満足度等の把握に努めました。

イ ご意見箱を設置し、来館者の意見・要望等を受け満足度の向上に努めました。

(7) 個人情報保護への取組状況等

ア (一財)大阪消防振興協会個人情報保護規程の遵守

イ (一財)大阪消防振興協会個人情報保護規程取扱要綱に基づく事務処理の徹底

ウ 申込書等の個人情報については、事務室の施錠保管庫に適切に保管

エ その他

- ・ (一財) 大阪消防振興協会コンプライアンス規程及び要綱の制定(平成25年10月1日)
- ・ (一財) 大阪消防振興協会内部通報に関する要綱の制定(平成25年10月1日)
- ・ (一財) 大阪消防振興協会インターネット及び電子メール適正使用に関する要綱等の制定(平成25年10月1日)

上記のとおり報告します。

指定管理者	所 在 地	大阪市西区江戸堀1丁目24番18号
	商号または名称	一般財団法人大阪消防振興協会
	代表者氏名	理事長 小西 一功
	所 在 地	大阪市浪速区難波中2丁目10番70号
	商号または名称	株式会社ノムラメディアス大阪事業所
	代表者氏名	事業所長 富林 健二
	所 在 地	愛知県あま市七宝町川部出屋敷69番地
	商号または名称	ジェイ・アクシス株式会社
	代表者氏名	代表取締役 赤羽 徹